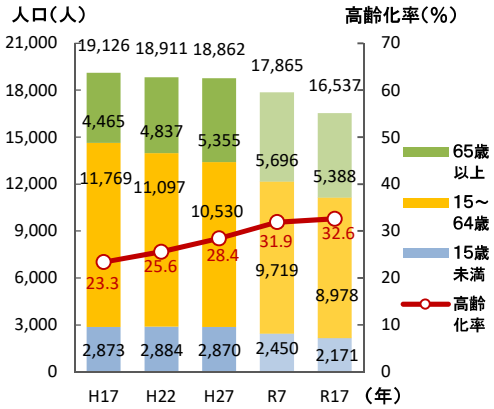
2-5. 大野地域のまちづくり構想

（1）地域の概況

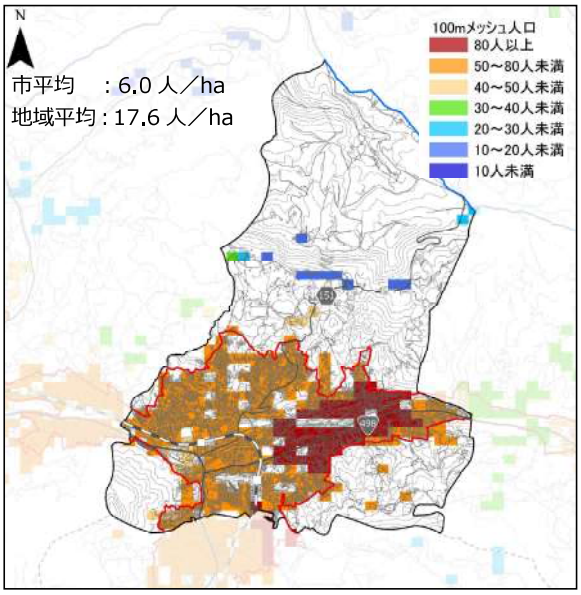
- 大野地域は、大野支所管内を対象とした約 1,072ha の面積を有する地域です。
- 人口は、平成 27 年の国勢調査において 18,862 人で、平成 17 年と比べ約 1%減少しています。
- 瀬戸越地区や泉福寺地区において人口密度が高い状況です。
- 高齢化率は 28.4%で、市平均とほぼ同じとなっています。

［人口推移及び年齢３区分人口比］

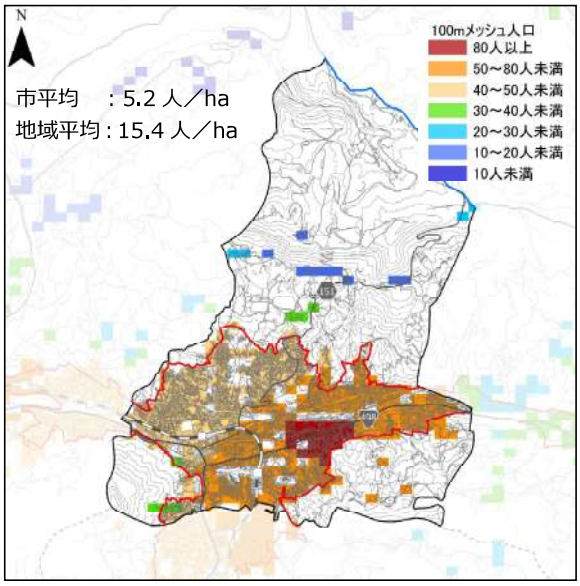


※H17～27の合計人口は年齢不詳人口を含む

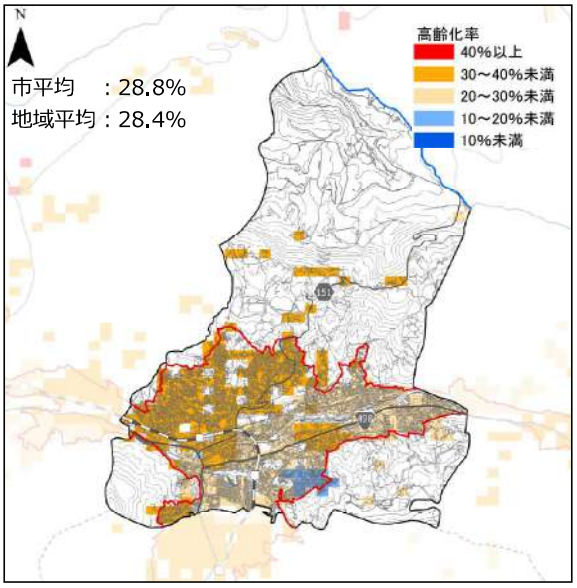
［人口密度（H27）］



［人口密度（R17）］

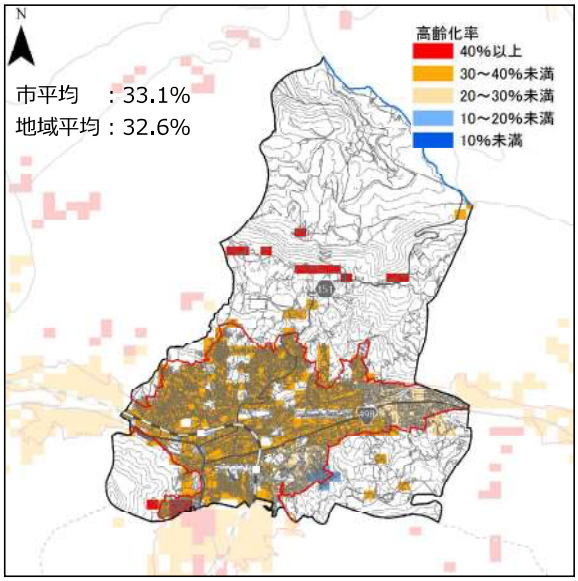


［高齢化率（H27）］



（出典：国勢調査）

［高齢化率（R17）］



※R17（2035）は、国立社会保障・人口問題研究所(平成 30 年 3 月推計)に基づく。

（2）地域の特性と主要課題

地域の特性

- **当地域は、市の中北部に位置し、主要幹線道路が交わり、鉄道やバスといった公共交通機関が充実し、北部エリア方面への交通結節点となっています。**
- **泉福寺地区には県営及び市営住宅が建ち並び、相浦川沿いから斜面地にかけて住宅地が形成されています。**
- **国道 204 号と 498 号の交差点からそれぞれの国道沿いに、高等学校や高次医療機関、沿道型の店舗などが立地しています。**
- **泉福寺洞窟や岩下洞穴をはじめとした歴史文化資源や、眼鏡岩公園などの特色ある自然景観を有しています。**
- **交通機能や都市機能の集積を活かし、周辺地域の日常生活を支える役割を担っています。**

地域の主要課題

- ***地域核にふさわしい都市機能の維持・強化***

  当地域では小売店舗、医療施設ともに大きく減少しています。中心部である左石駅周辺及び国道 498 号沿線においては、周辺地域からも頼られる都市機能の維持や交通渋滞箇所の改善などによる利便性の高い市街地の形成が求められます。

- ***生活基盤の充実と災害リスクの低減***

  当地域では、生活環境面で、公共下水道の整備、公共施設のバリアフリー化が満足度は低く重要度が高いものとなっています。また、斜面住宅地では狭あいな道路も多く残っており、計画的な生活基盤の充実が求められます。一方で、斜面市街地を中心に土砂災害リスクの高いエリアが広がっており、災害リスクの低減が求められます。

- ***地域の歴史文化資源や特色ある自然景観を守り活かした交流の活性化***

  当地域には、泉福寺洞窟や岩下洞穴、大智庵城跡といった歴史文化資源や眼鏡岩などの特色ある自然景観を有しており、これらの地域資源を守り活かした地域外との交流の活性化が求められます。

- ***豊かな自然や田園景観の保全***

  当地域では市街地縁辺での宅地化はほとんど見られませんが、北部から世知原地域にかけて緑豊かな自然や棚田の田園景観を有しており、これらの景観を形成する自然環境や農地と市街地のすみ分けが求められます。

（3）地域の将来像とまちづくりの主な視点

地域の将来像

**都市機能の集積や地域資源を活かし
多くの人が訪れる利便性の高いまちづくり**

地域の生活スタイル

- 市街地が少しずつ更新され、周辺地域からも利用される都市機能施設が集積し、買い物、子育て、教育、医療福祉など多くの都市サービスがあり、歩いて暮らすことができる。
- まちなかではライフスタイルに応じて、都市型住宅や戸建て住宅など多様な住まい方があり、都心の施設にもアクセスしやすく、歩いて暮らすことができる。山間部に近い生活圏では、豊かな自然が身近にあり、地域で支え合いながら、ゆったり暮らすことができる。
- 鉄道、バス、地域交通など多様な公共交通手段があり、他地域へアクセスしやすい。市街地内は多少狭くても車が進入できる道がある。
- 多様な歴史文化資源や自然を訪れる人々と交流できる場がある。

地域のまちづくりの主な視点

- ***周辺地域から頼られる利便性の高いまちづくり***

　公共交通機関の利便性の良さや既存の都市機能の集積を活かし、拠点市街地として高次な都市機能の維持・誘致を図り、柚木・中里皆瀬など周辺地域から頼られる利便性の高いまちづくりを目指します。

- ***誰もが安全かつ快適に暮らせる住みよいまちづくり***

　地域内の交通結節機能の強化、地域公共交通の改善や生活基盤の整備によって、良好な居住環境の提供や地域内外の交流を促進し、誰もが安全で快適に暮らせるまちづくりを目指します。

- ***歴史文化資源や自然を活かした交流のまちづくり***

　当地域が有する歴史的な資源や豊かな自然を守り活かした、地域内外との交流が盛んなまちづくりを目指します。

（4）地域のまちづくり方針

地域におけるまちづくりの基本的方針

当地域は、公共交通の利便性が高く、国道沿いを中心に周辺の地域からも多くの人が訪れる医療、教育、沿道商業といった都市機能が集積しています。

また、歴史文化資源や特色ある自然景観など、地域内外との交流に資する地域資源を有しています。

今後は、市街地周辺の自然環境や農地の保全を図りながら、既成市街地の交通機能や都市機能を活かし、利便性が高く個性ある市街地を形成することで、周辺地域の日常生活を支える安全で快適なまちづくりを進めていくものとします。

地域のまちづくりの方針

- ***周辺地域から頼られる利便性の高いまちづくり***

①公共交通機関の利便性や既存の都市機能の集積を活かした地域核の形成

大野支所周辺から労災病院周辺にかけた市街地を地域核と位置づけ、民間活力を活かした市街地再生を図るとともに、商業、医療、福祉、教育文化、金融など地域核にふさわしい高次な都市機能の維持・更新と交通結節機能の充実、安全な都市環境の創出によって、利便性の高い市街地の形成を図ります。

②周辺地域の日常生活機能を補完する市街地の形成

国道 498 号沿いの沿道型商業施設の集積地においては、当地域及び周辺地域における日常生活の利便性向上に資する適正な沿道商業施設の誘導・維持を図ります。

- ***誰もが安全かつ快適に暮らせる住みよいまちづくり***

③安全で快適な生活を支える生活基盤の維持・向上

災害危険性の高いエリアへの宅地化を抑制し、既成市街地の生活道路や公共下水道の整備、主要渋滞箇所の改善、地域内の移動手段の確保、地域が主体となった防災活動への支援などによって安全で快適な生活を支える生活基盤の維持・向上を図ります。

- ***歴史文化資源や自然を活かした交流のまちづくり***

④歴史文化資源を活かした、地域外との交流の促進

泉福寺洞窟や岩下洞穴、大智庵城跡などの歴史文化資源を保全するとともに、これらの地域資源を活用した交流の促進を図ります。

⑤豊かな自然や憩いの空間の保全と活用

石盛岳公園や世知原へとつながる緑豊かな自然環境や田園景観を保全し、また、眼鏡岩公園や大智庵城跡公園などが有する自然景観などを活かし、自然とふれあえる憩いの空間としての保全と活用を図ります。

大野地域のまちづくり方針図

〈国道 498 号沿道〉

②周辺地域の日常生活機能を補完する市街地の形成

＜想定される取組＞

○適正な沿道商業施設の誘導・維持

○居住環境の維持に資する住・商の適切なすみ分け

地域核

〈大野支所～労災病院周辺〉

①公共交通機関の利便性や既存の都市機能の集積を活かした地域核の形成

＜想定される取組＞

○民間活力を活かした市街地更新

○地域核にふさわしい高次な都市機能の維持・誘致（商業、医療、福祉、教育文化、金融など）

○基幹的な公共交通の利便性の維持・利便性向上

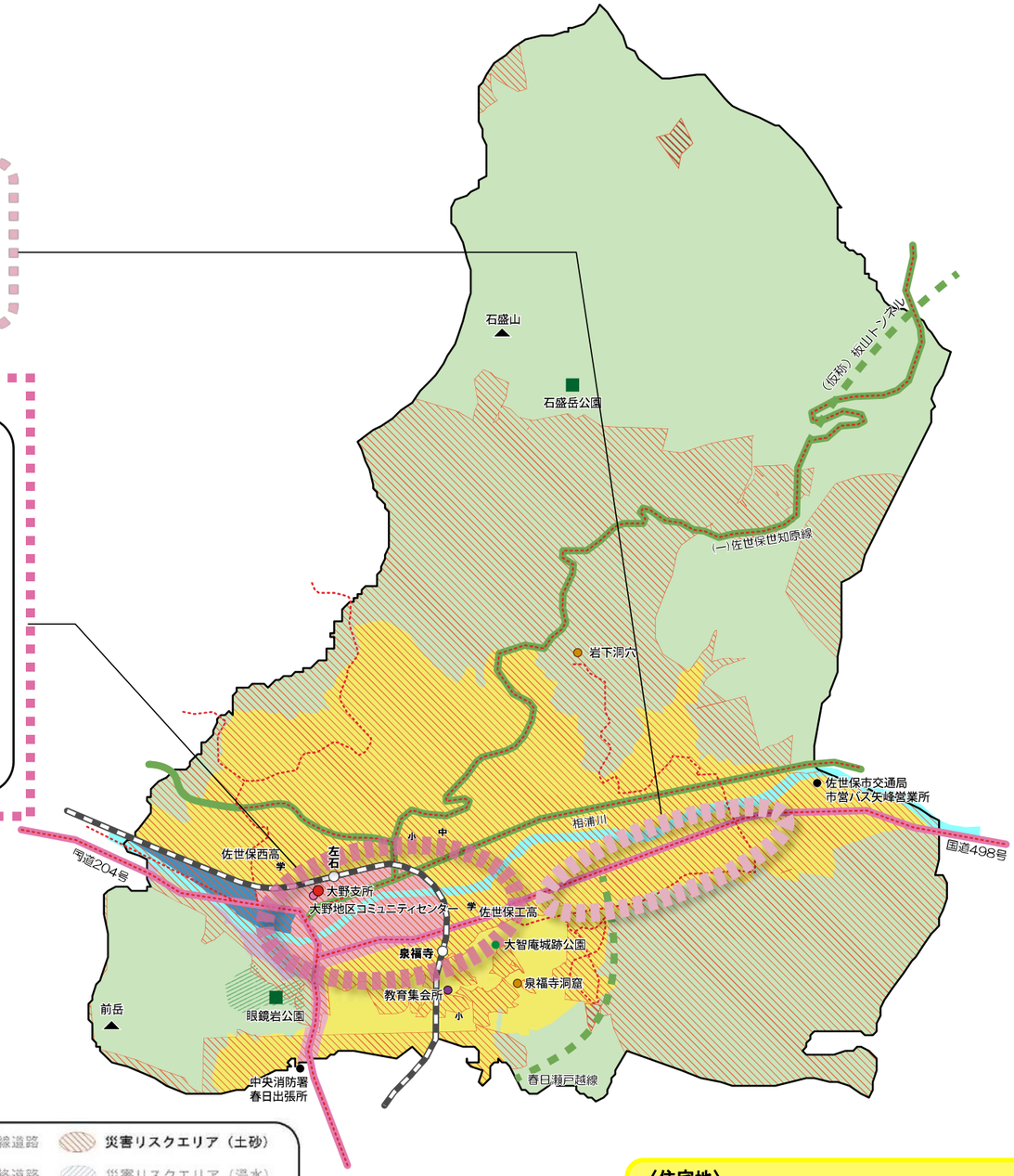
○地域内の円滑な移動を支える交通機能の充実

○交通危険箇所、渋滞箇所の改善（春日瀬戸越線の整備など）

○空き家などの低未利用地の有効利用

○歩き回りやすい都市環境の創出

★左石駅周辺の市街地再整備の検討



〈自然環境共生地〉

④歴史文化資源を活かした、地域外との交流の促進

＜想定される取組＞

○泉福寺洞窟、岩下洞穴、大智庵城跡などの歴史文化資源の保全

★歴史探訪など交流の場としての活用

★地域資源の案内など交流促進のための活動

⑤豊かな自然や憩いの空間の保全と活用

＜想定される取組＞

○市街地拡大の抑制

○石盛山などの自然環境の保全

○眼鏡岩及びその周辺の個性ある自然景観の保全

★特色ある公園の情報案内機能の充実

★田園景観の保全

〈住宅地〉

③安全で快適な生活を支える生活基盤の維持・向上

＜想定される取組＞

○災害危険性の高いエリアでの宅地化抑制

○幹線道路へアクセスする生活道路の改善や公共下水道の整備

○交通危険箇所、渋滞箇所の改善（春日瀬戸越線の整備など）

○地域公共交通利用促進策の充実

★地域公共交通の利用

★ハザード情報の共有など地域防災力の強化

凡　例

＜想定される取組＞

★印は、主に地域や民間が主体となった取組が期待されるもの。

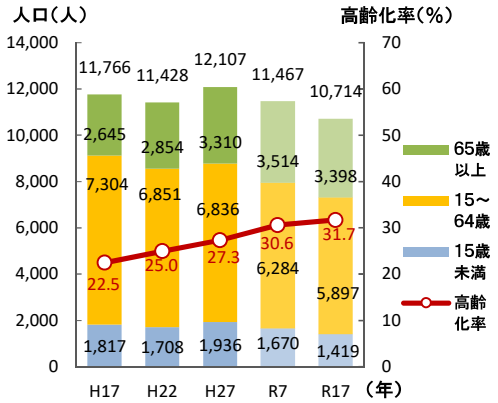
- 商業・業務地
- 工業地
- 住商工共存地
- 住宅地（用途地域内）
- 郊外住宅地（用途地域外）
- 自然環境共生地
- 保全すべき緑地
- 海岸
- 観光施設
- 特色ある公園
- 主な公園
- 主な運動施設
- 市役所
- 支所・行政センター
- コミュニティセンター
- 教育・文化施設
- 小学校
- 中学校
- その他の主な学校
- 保健福祉施設
- その他主な公共公益施設
- 文化財・史跡
- 高規格幹線道路
- 地域高規格道路
- 主要幹線道路
- 主要な道路
- 鉄道
- 国際航路
- 航路
- 基幹バスルート
- 河川
- 災害リスクエリア（土砂）
- 災害リスクエリア（浸水）

2-6. 中里皆瀬地域のまちづくり構想

（1）地域の概況

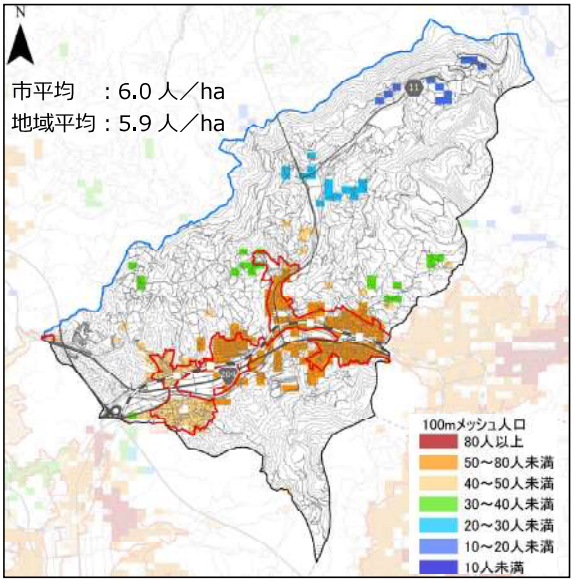
- 中里皆瀬地域は、中里皆瀬支所管内を対象とし、約2,043ha の面積を有する地域です。
- 人口は、平成 27 年の国勢調査において 12,107 人で、平成 17 年と比べ約 3%増加しています。
- 地域全体として人口が減少している中で、上本山地区においては人口が増加しています。また、皆瀬地区や野中地区、吉岡地区において、人口密度が高い状況です。
- 高齢化率は 27.3%で、市平均を下回っています。

［人口推移及び年齢３区分人口比］

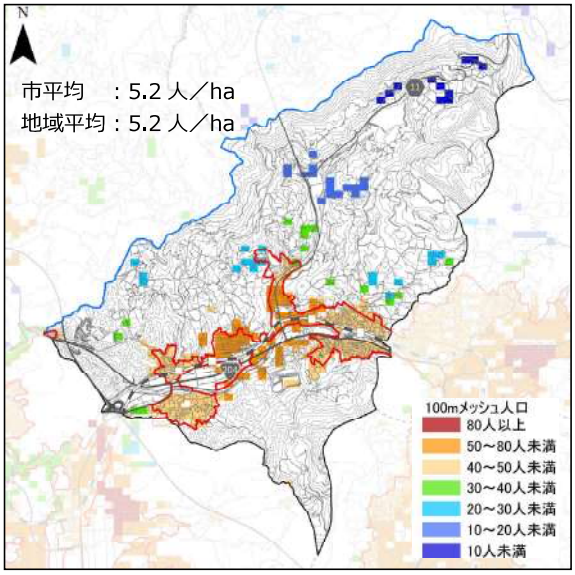


※H17～27の合計人口は年齢不詳人口を含む

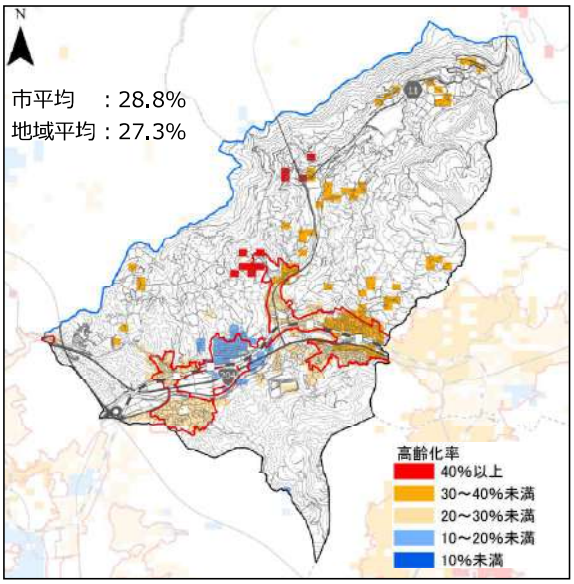
［人口密度（H27）］



［人口密度（R17）］

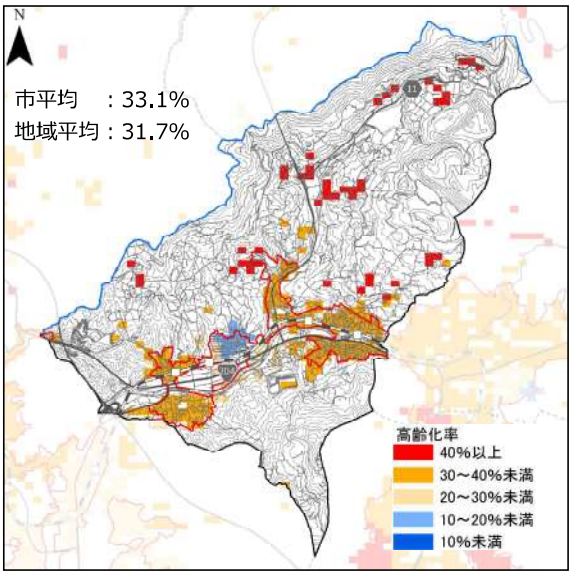


［高齢化率（H27）］



（出典：国勢調査）

［高齢化率（R17）］



※R17（2035）は、国立社会保障・人口問題研究所(平成 30 年 3 月推計)に基づく。

（2）地域の特性と主要課題

地域の特性

- **当地域は、南側を将冠岳や但馬岳、北側を五蔵岳に囲まれ、ほぼ中央部を相浦川が流れています。**
- **鉄道沿い及びその北側に向けて住宅開発が進み、広く住宅地が形成されています。**
- **相浦川、小川内川沿いには農地が拡がり、農業が営まれています。**
- **鉄道に並行して国道 204 号が地域を横断し、西九州自動車道相浦中里ＩＣにより広域交通の利便性が高まり、道の駅整備による新たなにぎわいも生まれています。**
- **貴重な水資源である菰田貯水池や岡本水源地などを有する豊かな自然環境や、下本山岩陰をはじめとした歴史文化資源を有しています。**

地域の主要課題

- ***安全で快適に暮らせる居住環境の充実や災害リスクの低減***

当地域は近年人口が微増しているものの、今後は人口も減少に転じ、高齢化も進行する予測となっています。自家用車での買い物の利便性が高い地域ですが、小売店舗やバス便数が大きく減少しており、斜面地の住宅市街地では、徒歩や公共交通機関を用いた買い物の利便性の低下が懸念されます。今後は、日常的な生活サービスの維持と併せ、地域内の移動手段の確保、公共下水道の整備などによる居住環境の充実や災害リスクの低減が求められます。

- ***地域内外の人々が交流する場の創出***

当地域には住民や来訪者でにぎわう道の駅、水源地などの自然と親しみ憩える場があります。今後は、道の駅や相浦川や菰田水源地といった豊かな自然を活かし、地域内外の人たちが憩える交流の場の創出が求められます。

- ***歴史文化資源や豊かな自然環境の保全への対応***

当地域は、下本山岩陰などの歴史文化資源や、将冠岳、五蔵岳などの豊かな自然を有しています。今後は、これらの歴史文化資源や自然環境などを共有の財産として保全し、後世につなげていくことが求められます。

（3）地域の将来像とまちづくりの主な視点

地域の将来像

歴史文化資源や豊かな自然とふれあう
自然と人にやさしいまちづくり

地域の生活スタイル

- 幹線道路沿いでは身近な生活サービス施設が利用でき、歩いて暮らすことができる。少し足を伸ばせば、大野地域の多様な都市的サービスを受けることができる。
- まちなかではライフスタイルに応じて、都市型住宅や戸建て住宅など、多様な住まい方ができる。山間部に近い生活圏では、豊かな自然の中で、地域で支え合いながら、ゆったり暮らすことができる。
- 鉄道、バス、地域交通など多様な公共交通手段があり、山間部では自動車が主体。
- 良好な農地、川や山が保全され、身近に自然と触れ合うことができる。

地域のまちづくりの主な視点

- ***日常生活サービス機能の充実により利便性を高めるまちづくり***

  日常生活を支える生活サービス機能の維持に併せ、幹線道路沿道などにおいて市街地生活核を補完し、身近な地域で買い物ができる利便性の高いまちづくりを目指します。

- ***誰もが安全で快適に暮らせるまちづくり***

  居住地における災害リスクの低減、地域内の円滑な移動手段の確保や生活基盤の整備によって、誰もが安全で快適に暮らせるまちづくりを目指します。

- ***自然や歴史文化資源とふれあえるまちづくり***

  豊かな自然や歴史文化資源を守り活かすことで、自然や歴史文化とふれあえるまちづくりを目指します。

- ***災害リスクを考慮したまちづくり***

  相浦川など浸水想定区域を考慮したうえで、居住地の配置を適正化するまちづくりを目指します。

（4）地域のまちづくり方針

地域におけるまちづくりの基本的方針

当地域は、将冠岳や五蔵岳といった山々を有し、地域の中心を相浦川が流れ、豊かな自然環境に囲まれるように東西に市街地が広がっており、相浦川沿いには下本山岩陰といった歴史的な資源を有し、近傍の相浦中里ＩＣに隣接して道の駅も整備されています。

今後は、これらの地域資源を保全・活用し、また、これらとふれあうまちづくりと併せて、日常の生活サービス機能の充実、安全で円滑な移動の確保によって、安全で快適に暮らせるまちづくりを進めていくものとします。

地域のまちづくりの方針

- ***日常生活サービス機能の充実により利便性を高めるまちづくり***

①地域の日常生活を支える市街地生活核の形成

中里皆瀬支所周辺を市街地生活核と位置づけ、既存の商店街を活かした都市機能の維持を図ります。

また、地域のコミュニティや交流の場の創出を図るため、空き家などの低未利用地の有効利用や小さな拠点の形成を図ります。

②地域全体の生活サービス機能の補完

中里地区では、現状の都市機能の維持とともに、西九州自動車道相浦中里ＩＣ周辺や国道 204 号沿いにおける適正な土地利用の誘導により、地域全体の都市機能の補完を図ります。

- ***誰もが安全で快適に暮らせるまちづくり***

③快適な移動を支える移動手段の確保

公共交通機関の維持・利便性向上を図り、他地域への移動を支える公共交通の利用促進や地域内の移動手段の確保を図ります。

- ***自然や歴史文化資源とふれあえるまちづくり***

④豊かな自然環境や歴史文化資源の保全と憩い空間の創出

相浦川や菰田貯水池をはじめとした豊かな自然や下本山岩陰などの歴史文化資源及び、田園景観を形成する農地などを保全するとともに、道の駅との連携を高め、地域の人たちが憩える場や豊かな自然とふれあえる場として活用を図ります。

- ***災害リスクを考慮したまちづくり***

⑤安全で快適な暮らしを支える生活基盤の維持

災害危険性の高いエリアでの宅地化を抑制するとともに、地域が主体となった防災活動への支援を図ります。また、地域内の交流に資する公園、公共下水道の整備などにより生活基盤の維持・向上を図ります。

中里皆瀬地域のまちづくり方針図

〈交通機能〉

③快適な移動を支える移動手段の確保

＜想定される取組＞
- ○基幹的な公共交通網における利便性向上
- ○地域内の円滑な移動を支える交通機能の充実
- ○地域公共通利用促進策の充実
- ★地域公共交通の利用

⑤安全で快適な暮らしを支える生活基盤の維持

＜想定される取組＞
- ○歩行者空間、公園の改善

市街地生活核

〈中里皆瀬支所周辺〉

①地域の日常生活を支える市街地生活核の形成

＜想定される取組
- ○現状の都市機能の維持
- ○空き家などの低未利用地の有効利用
- ★地域の農産物を活かした交流の促進

〈中里地区〉

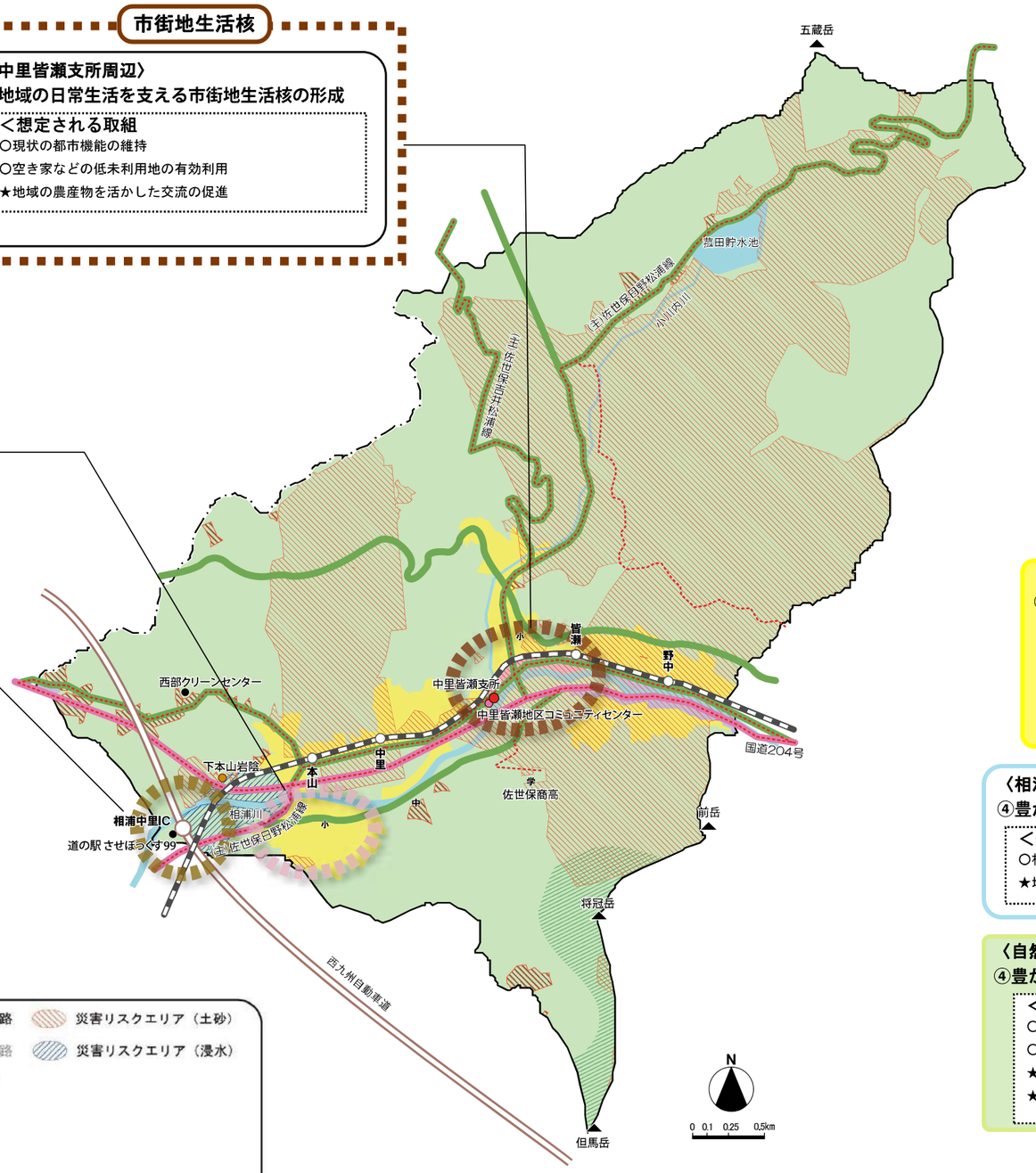
②地域全体の生活サービス機能の補完

＜想定される取組＞
- ○適正な土地利用による生活機能の充実
- ★商店街の活性化

〈西九州自動車道相浦中里ＩＣ周辺及び主要幹線道路沿い〉

②地域全体の生活サービス機能の補完

＜想定される取組＞
- ○交通の利便性を活かした適正な土地利用の誘導



〈住宅地〉

⑤安全で快適な暮らしを支える生活基盤の維持

＜想定される取組＞
- ○災害危険性の高いエリアでの宅地化抑制
- ○身近な憩いの場となる公園・広場の充実
- ○公共下水道の整備
- ★ハザード情報の共有など地域防災力の強化

〈相浦川・菰田貯水池〉

④豊かな自然環境や歴史文化資源の保全と憩い空間の創出

＜想定される取組＞
- ○相浦川沿いにおける遊歩道の整備
- ★地域の憩い空間としての活用

〈自然環境共生地〉

④豊かな自然環境や歴史文化資源の保全と憩い空間の創出

＜想定される取組＞
- ○将冠岳などの自然環境の保全
- ○農地と田園景観の保全
- ★歴史文化資源の案内や伝承
- ★歴史文化資源を活かした散策ルートの設定

凡　例

＜想定される取組＞
★印は、主に地域や民間が主体となった取組が期待されるもの。

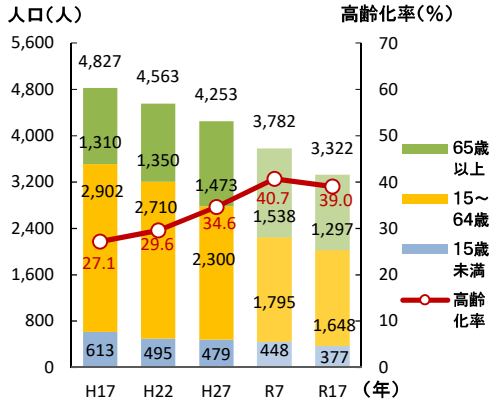
- 商業・業務地
- 工業地
- 住商工共存地
- 住宅地（用途地域内）
- 郊外住宅地（用途地域外）
- 自然環境共生地
- 保全すべき緑地
- 海岸
- 観光施設
- 特色ある公園
- 主な公園
- 主な運動施設
- 市役所
- 支所・行政センター
- コミュニティセンター
- 教育・文化施設
- 小 小学校
- 中 中学校
- 学 その他の主な学校
- 保健福祉施設
- その他主な公共公益施設
- 文化財・史跡
- 高規格幹線道路
- 地域高規格道路
- 主要幹線道路
- 主要な道路
- 鉄道
- 国際航路
- 航路
- 基幹バスルート
- 河川
- 災害リスクエリア（土砂）
- 災害リスクエリア（浸水）

2-7. 柚木地域のまちづくり構想

（1）地域の概況

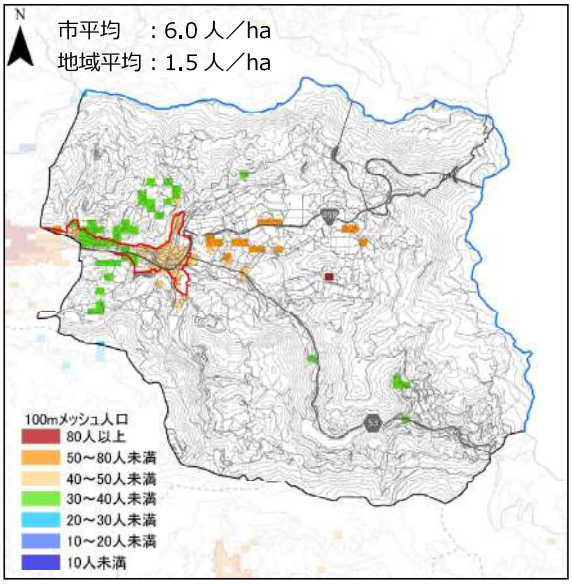
- 柚木地域は、柚木支所管内を対象とした約 2,851ha の面積を有する地域です。
- 人口は、平成 27 年の国勢調査において 4,253 人で、平成 17 年と比べ約 12%減少しています。
- 小舟地区や柚木元町地区においては、人口は増加しています。また、地域の中心部を含む柚木地区では、人口密度が高い状況です。
- 高齢化率は 34.6%で、市平均を上回っています。

［人口推移及び年齢３区分人口比］

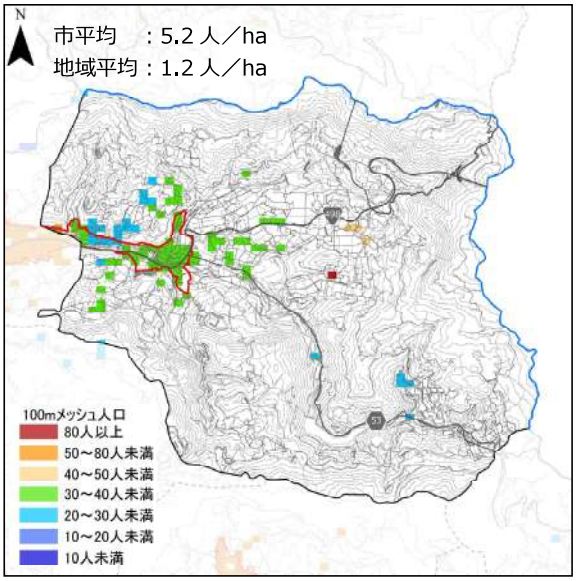


※H17～27の合計人口は年齢不詳人口を含む

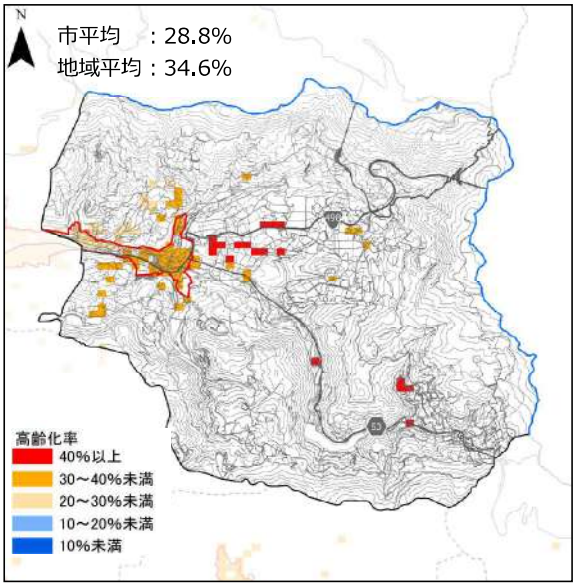
［人口密度（H27)］



［人口密度（R17)］

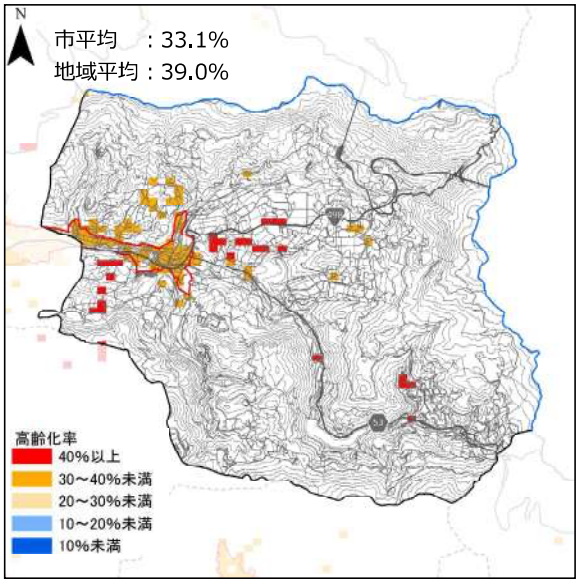


［高齢化率（H27)］



（出典：国勢調査）

［高齢化率（R17)］



※R17（2035）は、国立社会保障・人口問題研究所(平成 30 年 3 月推計)に基づく。

（2）地域の特性と主要課題

地域の特性

- **当地域は、国見山や烏帽子岳、八天岳などの山々に囲まれた地域です。**
- **地域内には、相当・川谷・転石の三つの水源地を抱え豊富な水資源を有しており、中でも、川谷水源地周辺は、たくさんのホタルが飛び交うホタルの里として知られています。**
- **中心部から伊万里方面に向けた国道 498 号と三川内方面に向けた主要地方道柚木三川内線が結節しています。**
- **水稲やトマト、メロン、トルコキキョウの温室栽培や畜産業など様々な農産物の生産が行われている農業が当地域の基幹的な産業となっており、農産物を求めて地域外から多くの人が訪れています。**

地域の主要課題

- ***人口減少・高齢社会に対応した生活サービスの維持や災害リスクの低減***

当地域では人口減少及び高齢化が大きく進行しており、現状でも高齢化率 30%を超えています。日常的な生活サービスは支所周辺や隣接する大野地区に集積する病院や商業施設を利用している状況です。今後、生活利便施設の減少、公共交通サービスの維持が懸念され、生活サービスの維持が求められます。また、地域の中心部を含め土砂災害の危険性が高いエリアがあり、リスクに応じた対策が求められます。

- ***地域の基幹産業の場である農地の保全と活用***

当地域は、農業が盛んな地域であり、農地の保全と併せ、新規就農者への農地・農家の有効活用、また、地域の農業者で運営される直売所の運営などによる農業を活かした地域の活力の創出が求められます。

- ***憩いの空間の創出と地域内外との交流の活性化***

ホタルの里として知られる川谷水源地周辺や、地域住民によって桜が植樹されているふれあいの森公園など豊かな自然環境を活かし、地域内外の交流の場として活用することが求められます。

（3）地域の将来像とまちづくりの主な視点

地域の将来像

豊かな自然や農業と親しみ、ふれあう
憩いと交流のまちづくり

地域の生活スタイル

- 市街地生活核や幹線道路沿いでは身近な生活サービス施設が利用でき、歩いて暮らすことができる。少し足を伸ばせば、大野地域の多様な都市的サービスを受けることができる。
- ライフスタイルに応じて、都市型住宅や戸建て住宅など、多様な住まい方ができる。山間部に近い生活圏では、豊かな自然の中で、地域で支え合いながら、ゆったり暮らすことができる。
- 自家用車の他、バス、地域交通などの公共交通手段を利用できる
- 良好な農地、川や山が保全され、身近に農や自然と触れ合うことができる

地域のまちづくりの主な視点

- ***安全で快適に暮らせる住みよいまちづくり***

  地域の日常生活を支える生活サービス機能の維持と併せ、地域のニーズや需要に見合った地域公共交通の維持、災害リスクの低減などによって、住みよいまちづくりを目指します。

- ***豊かな自然環境と共生しふれあえるまちづくり***

  ３つの水源地を有する豊かな山々の自然を貴重な資源として保全し、また、これらの豊かな自然を活かし、自然とふれあえるまちづくりを目指します。

- ***農業を活かした活力と交流のあるまちづくり***

  地域の農業を守り活かし、地域の農業者と消費者の交流による活力のあるまちづくりを目指します。

（4）地域のまちづくり方針

地域におけるまちづくりの基本的方針

当地域は、多くの水源地を有しており、それらを育む国見山や烏帽子岳などの豊かな自然環境に囲まれています。また、水稲を中心とした多くの農作物の生産が盛んであり農業が地域の基幹産業となっています。

今後は、地域の豊かな自然環境や農業とふれあえる交流のまちづくりと併せ、日常生活の利便性を維持・向上させ、住みやすいまちづくりを進めていくものとします。

地域のまちづくりの方針

- ***安全で快適に暮らせる住みよいまちづくり***

①地域の日常生活を支える市街地生活核の形成

柚木支所周辺を市街地生活核と位置づけ、現状の都市機能の維持を図ります。

また、地域のコミュニティや交流の場の創出を図るため、空き家などの低未利用地の有効利用や小さな拠点の形成を図ります。

②安全で快適な生活を支える生活基盤の維持・向上

他の地域への公共交通機関の維持・利便性向上を図るとともに、地域内の移動手段の確保を図ります。

災害危険性の高いエリアでの宅地化を抑制するとともに、地域が主体となった防災活動への支援を図ります。

- ***豊かな自然環境と共生しふれあえるまちづくり***

③豊かな自然を守り活かした憩い空間の創出

川谷貯水池をはじめとした水源地や相浦川、八天岳などの豊かな自然環境の保全を図るとともに、柚木ふれあいの森公園をはじめとした地域資源との連携により、地域内外の人たちが自然とふれあえる憩いの空間としての活用を図ります。

- ***農業を活かした活力と交流のあるまちづくり***

④農地の保全・継承や農業を活かした交流の創出

地域産業を支える農地の保全や継承を図るとともに、農産物の直売や体験などによる地域内外の交流の創出を図ります。

柚木地域のまちづくり方針図

市街地生活核

〈柚木支所周辺〉
①地域の日常生活を支える市街地生活核の形成

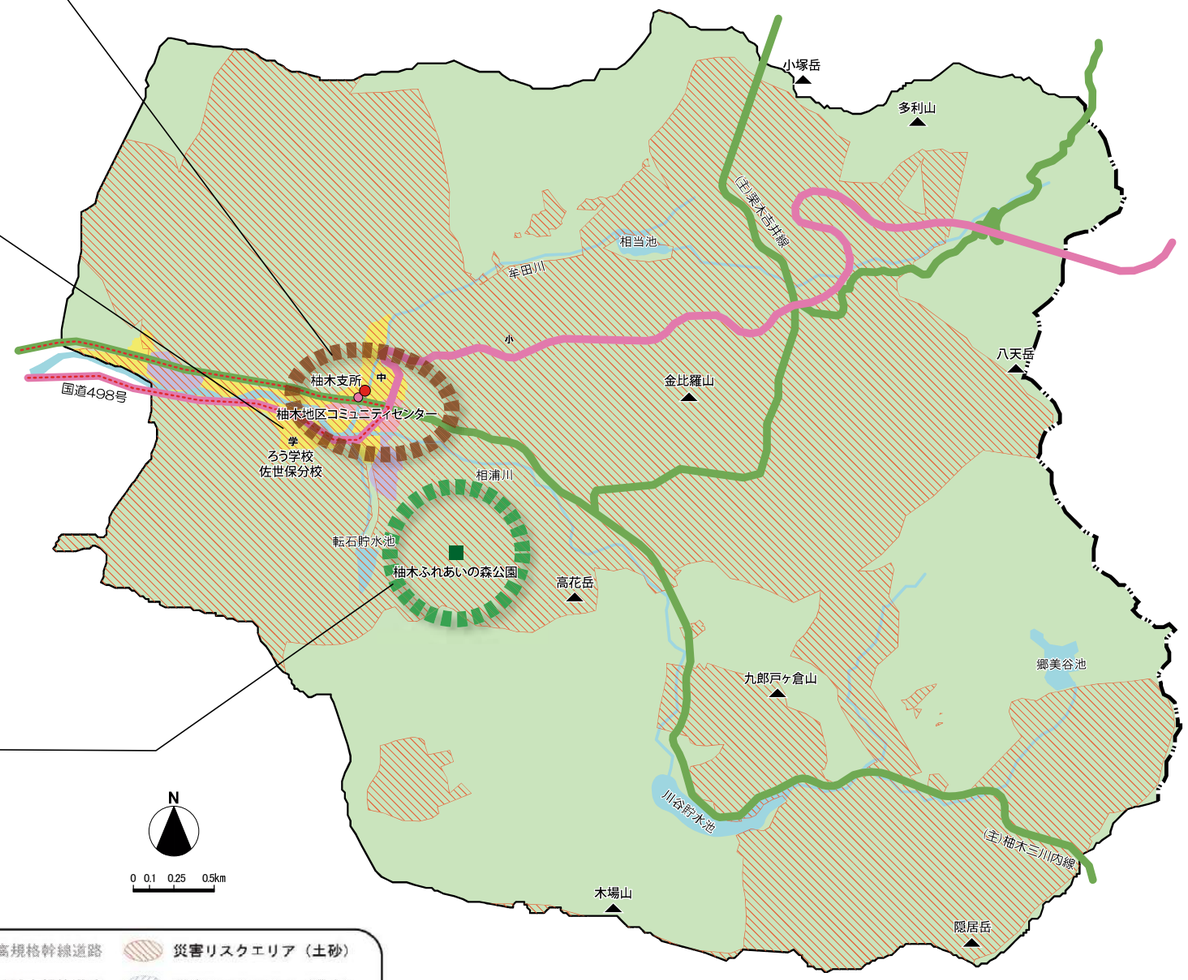
＜想定される取組＞
○現状の都市機能の維持
○地域内の円滑な移動を支える交通機能の充実
○空き家などの低未利用地の有効利用
○小さな拠点の形成

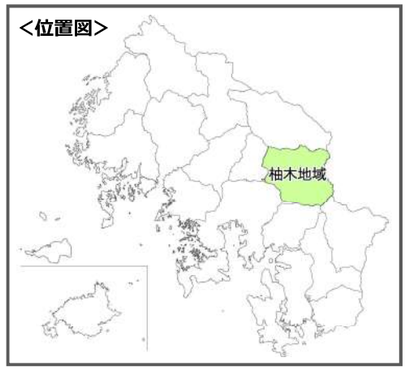
〈住宅地〉
②安全で快適な生活を支える生活基盤の維持・向上

＜想定される取組＞
○災害危険性の高いエリアでの宅地化抑制
○地域公共交通利用促進策の検討
★地域公共交通の利用
★ハザード情報の共有など地域防災力の強化

〈柚木ふれあいの森公園周辺〉
③豊かな自然を守り活かした憩い空間の創出

＜想定される取組＞
○アクセス道路の改善
★歴史文化資源と連携したウォーキングコースの設定
★サクラ祭りなどによる地域内交流の促進





〈自然環境共生地〉
③豊かな自然を守り活かした憩い空間の創出

＜想定される取組＞
○八天岳などの自然環境の保全
★地域資源の保全・活用
★自然を活かした地域の祭りなどイベントの開催
★四季の花の植栽など憩い空間の創出
★名所を巡るウォーキングコースの設定・維持管理

④農地の保全・継承や農業を活かした交流の創出

＜想定される取組＞
○農地の保全及び継承
★地域の農産品のＰＲ
★直売所における地域外との交流や地域資源の情報案内
★農業の担い手となる人材の育成

〈相浦川・牟田川・貯水池〉
③豊かな自然を守り活かした憩い空間の創出

＜想定される取組＞
○ホタルなどの生息環境の保全
★親水性のある憩いの空間としての活用
★自然とふれあえるイベントの開催などによる交流

凡　例

＜想定される取組＞
★印は、主に地域や民間が主体となった取組が期待されるもの。

- 商業・業務地
- 工業地
- 住商工共存地
- 住宅地（用途地域内）
- 郊外住宅地（用途地域外）
- 自然環境共生地
- 保全すべき緑地
- 海岸
- 観光施設
- 特色ある公園
- 主な公園
- 主な運動施設
- 市役所
- 支所・行政センター
- コミュニティセンター
- 教育・文化施設
- 小 小学校
- 中 中学校
- 学 その他の主な学校
- 保健福祉施設
- その他主な公共公益施設
- 文化財・史跡
- 高規格幹線道路
- 地域高規格道路
- 主要幹線道路
- 主要な道路
- 鉄道
- 国際航路
- 航路
- 基幹バスルート
- 河川
- 災害リスクエリア（土砂）
- 災害リスクエリア（浸水）